

## 令和 7 年度

### 第 2 回えどがわっ子食堂ネットワーク打ち合わせ会記録

日時：令和 8 年 1 月 22 日(木) 19：00～20：50

会場：グリーンパレス孔雀 1・2

#### 第 1 部（社協が作成）

#### 第 2 部

##### ①補助金についての連絡事項

(福祉推進課計画係長 小川)

補助金について 2 点ご連絡させていただきます。

1 点目は今年度の補助金について、実績報告の提出期限をお知らせいたします。昨年 11 月分から 3 月分までの実績報告については、4 月 10 日（金）を期限とさせていただきます。スムーズに手続きを進め、皆様に少しでも早く補助金のお支払いができればと思いますので、ご協力をお願いいたします。

2 点目は、来年度以降の補助金についてです。お手元の資料は、昨年末にネットワーク事務局を通じて皆様にメール送付したものです。お時間に限りがありますので、この場では、特にご注意いただきたい点をご説明いたします。

まず、子ども達の調理体験の様子ที่わかる写真を毎月撮って保存しておいてください。画像の提出をお願いする場合がございます。

次に、利用者数の記録方法です。これまでは「18 歳未満の児童」、「保護者」、「その他」で記録いただいていたが、4 月からは「その他」については「18 歳～20 代」、「30～50 代」、「60 代～」の 3 つに分けて記録をお願いします。「その他」の利用者を想定していない食堂は、スタッフの年代を記録してください。

最後に、各食堂で加入している保険について、利用者も補償の対象になっているか今一度確認をお願いします。なお、「あんしんフード君」についてはスタッフによる事故のみ補償の対象となっており、利用者による事故は対象にはなっていません。※

4月から新しい形で補助事業をスタートするという事で、区としても初めての試みになる部分がございます。こういう場合はどうか、といった疑問点がございましたら、事務局や区にお問い合わせをいただき、最終的には、皆様と共に来年度も歩んでいきたいと思っておりますので、ぜひご協力をいただき、新しい制度での運用に向かっていきたいと思っております。

**【※藤居世話人より補足】**

「あんしんフード君」の補償対象について補足します。例えば、スタッフが調理したもので子どもたちが食中毒になってしまったというような場合が補償の対象となります。多くの食堂がこの保険に入っていると思っておりますので、ご確認ください。

## ②グループワーク

(えどがわっ子食堂ネットワーク 藤居世話人)

これから皆さんのグループの中で、新たな補助要件を踏まえた食堂運営について意見交換をしていただきたいので、お手元の「グループワークの手引き」に沿ってご説明します。例えば、自分たちの食堂ではこれを実施しようと思うけれど、どうでしょうかといった意見交換をお願いしたいと思います。グループワークの後、発表の時間を予定しておりますが、全てのグループが発表ということではなく、全体で共有したい内容や、区への質問事項などがあれば発表をお願いします。

注意事項として、補助要件やグループ内で出た意見に対して否定的な意見は言わない。それから、時間が限られていますので、グループ内の全員が発言できるように協力して進めてください。各グループには記録してくださる方がいらっしゃいますので、進行司会と発表者は、記録員以外のメンバーから選んでください。では、これから20分間、グループワークをお願いします。

<グループワーク>20分間

終了時間になりましたので、全体に共有したい内容やご質問があるグループは挙手をお願いします。

**【1】調理体験の様子を毎月写真に撮るという点で、結果的に調理体験のお子さんが集まらなかった場合はどうしたらいいのでしょうか。**

(福祉推進課計画係 酒井)

募集をしたが結果的に調理体験のお子さんが集まらなかった月についても、募集をしていれば補助要件を満たすものとします。その場合、募集していたこと

がわかるものを確認させていただく場合がありますので、チラシやSNSのスクリーンショットなどを保存しておいてください。

【2】先ほどの質問に関連して、募集をしていないといけませんか。

(福祉推進課計画係 酒井)

定員数と同じ考え方で、10名以上の定員が要件になっていますが、10名以上の定員を設けていれば、仮に5人しか集まらなかった月でも補助の対象になります。同じように、子ども達が調理体験できるということで募集をしていただく必要があります。

【3】グループ内で中心的に上がった意見としては、そもそもちょっと乱暴なんじゃないかということです。9月3日の打ち合わせ会でみんなで意見を出し合って、それでもう決定事項として出てるって、おかしくないですか。色々なことを落とし込めていないですし、不安もあります。

あと、子ども食堂がまだどういう所か、区にわかってもらえていないと感じます。誰でも来ていいと言っても、困っている家庭の子どもでなければ子ども食堂に行っては駄目、と止める親御さんもいる中で、急に調理体験とは何かと、利用者がびっくりします。

補助金がなくなるかもしれないという話が出た時、私達の食堂では会場費が支出全体の半分くらいを占めていました。補助がなくなるならその会場は使えないと、新しい会場を探して今の場所になりました。会場が変わったことで、それまでの利用者が遠くなって来られなくなったこともあるので、努力してチラシをポスティングしたり、SNSにあげたりしています。

ボランティアが少ないので、調理体験に来たお子さんを見る目も足りません。グループで出た意見の中には、負担が大きい調理ボランティアへのお金を補助金で出してもいいんじゃないかという意見も出ました。

あとは、調理体験に参加したお子さんは無料で食べられる、などです。

区の意見を押し通されても、私たちは困ります。子どもたちや、困っている人のために日々一生懸命頑張っている中で、私たちは押し付けられたり抑え込まれる立場なんです。この資料だけで、報われない感じになってしまうのが悲しい。この要件でできる団体もあるかもしれませんが、私の団体はボランティアが少ないのでできません。

(福祉推進課長 白木)

お気持ちとしてはよくわかりますが、我々も今日この場で唐突にお伝えしたわけではなく、段階を踏んで皆様にご説明させていただきました。そこはご理解いただければと思います。

【4－1】「段階を踏んだ」とはどういうことですか。この話について意見を求められたのは9月の打ち合わせ会の時で、私も色々言わせていただきましたが、その後にこういう機会って設けられていますか。

(福祉推進課長 白木)

そもそもは補助金を廃止するというお話は、昨年1月に説明させていただいたところから始まっています。その後、補助廃止を撤回し、この新しい補助要件をお示しさせていただき、皆様からのご意見をいただければと、9月末まで募集期間を設けさせていただきました。こうした流れから、段階を踏んでいると考えております。

【4－2】9月の打ち合わせ会で、私や他の方も意見していたと思いますが、そもそも区の方々が、子ども食堂を実際に見て回った事例はどのくらいありますか。ちなみにうちには来られていないですが。

(福祉推進課長 白木)

全ての子ども食堂へは伺えておりません。

補助金をお支払いする立場として、一度補助金の廃止を決めるに至った背景や、区の中での事業の整理に関する考え方が消えた訳ではありません。そうした中、補助を続けるためにはどうしたらいいかと区として検討した結果が、皆様に提示させていただいている補助制度見直しに係る考えであります。

【4－3】今、66か所の食堂がネットワークに加入しているということで、月4万円の補助金ということは、月額にすると大体260万円ぐらいの支出になると思います。これは江戸川区の議員さんの3人分の報酬に当たると思います。それをもう払う価値がないと我々に思っているような感じがして、とても遺憾です。

子ども食堂の準備というのはものすごく時間かかるんです。その間我々含めてボランティアの方々は無報酬でやっています。区の職員の方はお金をもらって働いているでしょう。でも、我々は無報酬でより良いまちにしようと、買い出しや献立を考えたり、目に見えないところでものすごく頑張っています。私の団体は幸い、色々な企業からの資金や物品・食品の提供があるので、補助金がなくてもやっていけますが、そうではなく、補助金がなければやっていけないという食堂は多いと思います。

この現状を踏まえて、区の職員で手分けをすれば、66か所の食堂を見て回れるのではないか。要件を決めるはあくまで現場を見てから。それが段階を踏むと

ということなんです。そこを区の方々には理解していただきたい。区の方々には非常に憤りを感じております。

(福祉推進課長 白木)

区としては補助金が必要というお声もいただいた上で、改めて、補助を続けるにはどうしたらいいかと検討したうえでご提示させていただいておりますので、あまり喧嘩腰で言われてしまっても、こちらとしては困ってしまいます。

【5】先ほどのご意見を踏まえて、私にとっても月 1 回調理をさせるのは難しいことなので、この調理体験はちょっと違うなとは思いますが。ただ一度、区が少ないだろう財源で、この子ども食堂への補助をやめようとしたところを、私たちの熱い意見を受けてもう一度取り返してきてくれたことへの感謝はしています。最終決定をする人たちを納得させるために、何とかこの 2 つの補助要件を出したのだらうと思っています。

グループワークでも出た話ですが、子ども一人でご飯を買いに行くご家庭もあって、お母さんに 500 円でご飯を買っておいてと言われた時に、何を選んだらいいか、そういう食育だったらできるのではないかと。

第一部での畑のお話でも出ましたが、そういうのも全部ひっくるめて、子どもがこれから生きていく中で、より自分にとって安全なもの、健康なものを獲得していくとか、食に対する関心を育てるとするのは色々なアプローチがあると思うので、例えば調理体験と限らず幅広く提示していただけたら、できることあるのではないかと考えています。

あと、年代の報告についても、参加票に年代の欄を設けて利用者さんに丸をしてもらおうと考えているんですが、その際、区が統計を取りたいからと言えいいのか教えていただきたいです。

(福祉推進課計画係 酒井)

年代については、おっしゃっていただいたように、利用者さんに記入してもらうのも方法の一つかと思います。あとは目視で大体このくらいの年代かな、と記録していただいても構いません。確認方法はお任せします。区への報告用と相手方に伝えるかは特に指定しませんが、その方がスムーズにいくということでしたらそうしていただいても結構です。

【6】9月の打ち合わせ会で色んな意見が出ました。それを区が持ち帰って歩み寄るような方向で説明されていたように思います。しかし、この資料を見ますと、写真を撮るなど色々書かれています。先ほどどなたかもおっしゃいましたが、子ども食堂は準備に時間がかかります。今日、私どもは次の食堂開催に備え、買い

出しに行っています。当日は9時頃に集まって、お昼の利用者が来る時間に間に合うように調理する、これが原則なんです。それを子どもに手伝わせろと。

Q&Aに書いてありますが、カレーをかけるのが調理というんですか。チーズを添えるとか。そんなものが調理だと区が考えているということなんですか。そんな現実的じゃないことをさも偉そうに書いているのはおかしいんじゃないか。どういう考えなのかなと非常に不安です。

うちは利用者に年齢を記入してもらっていますが、特に女性は書きたがらないですよ。かといってあなた何歳ですかと聞けますか。そういう感覚を持っているのかなと思っています。その辺を融通利かせていただきたい。

それから子どもが怪我をした時の保険はどうするんですか。例えば、ボランティア保険などに入れなきゃいけないのかといった提案すら出されていない。やってほしいことがあるなら、行政ではこんなお手伝いができます、という優しさがあってもよろしいんじゃないでしょうか。

(福祉推進課計画係長 小川)

先ほども説明させていただいたことではありますが、年代につきましては、女性の方とか、聞きづらい方がいらっしゃれば、食堂側の判断で、このくらいの年代の方だろうと判断していただいても構いません。

それからこの補助金について、廃止というところから、条件を2つ付けたうえで継続になりました。当初から説明させていただいたとおり、区全体でアンケートをとり、今後は「中サービス—中負担」という方向で区政の運営を進めていくことになりました。それに伴って、区の事業全体の中で子ども食堂への補助金をゼロベースで見直した経緯があります。もちろん子ども食堂だけではなく、全般の見直しをして、その中で一旦子ども食堂への補助は廃止の対象になりました。もちろん廃止ではなく、継続していきたいというのが担当職員としての気持ちです。これは皆様と同じです。ただ、これまでどおりの方法で継続という話では、また廃止の対象にされかねません。皆様方には負担になる部分が多々あるかと思いますが、こういった条件を付与することで補助は継続されました。

ぜひ皆様と協力して、この補助金を守っていきたいという気持ちがあります。負担になる部分もあるかと思いますが、この形で何とかスタートさせて、良い形で定着させていきたいと考えています。もちろんこの形ですっといくということではなく、実際に進めていく中で見直すべき点があれば、当然検討はしていきます。

【7】グループワークで出た意見としては、現実問題として月に1回の調理体験は無理だというものがありました。私の食堂も月に1回、毎月調理体験をするのは難しいのですが、今日ご参加の食堂さんでちょっと難しいという方はどのくらいおられますか。

グループの中で出た意見として、調理体験に限らず、違う形での補助は難しいでしょうか。私たちの意見を吸い上げてくださり、今日までたくさんの方からメールなり文書なりで意見や質問が届いているんじゃないかなと思います。

(グループ内の方から、Q&A 別記の網掛けの項目(準備、配膳・片付け)のみでは補助対象外、網掛けになっていない項目(調理過程)は補助対象であるとの説明が入る)

【8】調理体験についてですが、やはりスペース的な問題ですとか、飲食店を経営されていて、そこと並行して子ども食堂としてお食事を提供して下さってる方ですとか、66か所の子ども食堂と一口に言っても、66通りの条件と66通りの状況と、66通りの都合があると思います。

区が今回の提案を出して下さったことに対して私は、基本的には色々と考えて下さって、こういう条件を設けてみんなが納得できるような形で運営するための知恵と努力をして下さったのだと考えてます。ただ、やはりその66通りの条件を全て網羅するというのは、なかなか難しいことだと思いますし、先ほどどなたかもおっしゃっていましたが、みんな頑張っているんですね。だからその頑張っているところを、うまく折り合いをつけていくというのは大変なことだと思います。ところで、Q&A 別記のカレーライスの例を見ると、そこには調理をしなければ駄目という感覚がここに込められているように感じます。その趣旨は、いわゆる調理体験をさせることの意義はどういうことなのかというところに起因していると思います。要は食べるものを大事にしようとか、食事をとるって大事なことだよとか、そういったことを子どもたちにきちんと伝えにいくことだとするのであれば、実際に調理をしなくても、食べたお皿を流しに運ぶとか、食事をいただいたことに感謝をするとか、そういったことを子どもたちに学ばせていくということも、この子ども食堂の大事な働きの一つなのではないかと私たちは考えています。

ですから、もし可能であれば、準備と、配膳・片付けが単独不可となっておりますが、これを単独でもOK、いわゆるそういう食育の中の一つとして、その食事を得られることの意味を子どもたちに大人として伝えていこうよと。そういう形でご検討いただけないでしょうか。そうするとみんな少しやりやすくなる気がします。

本当に、一度廃止になった補助金をここまで復活させていただいたことというのは、みんな感謝しているんです。だけど、やっぱりその中にこれをやらなかったら補助金をもらえないとなると、実際問題、運営ができなくなる。運営できなくなるのはいいです、やめちゃえばいいんですから。そうすると、そこで食事を得られない子どもたちが出てくる、やはりそこが一番問題だと思います。ぜひそのところを再考していただけたらありがたいと思います。

(福祉推進課計画係長 小川)

おっしゃっていただいたように、我々としてはこの補助を廃止したいということではなく、ぜひ使っていただきたいと考えています。先ほどの「カレーをかけるのが調理なのか」といったご意見もありました。ではしっかりと調理してください、野菜炒めを作ってくださいというような条件にすれば、ますます各食堂にとってはハードルが高くなってしまいますので、いわゆる「調理」とは言えないような項目についても補助の対象としたものです。

また、献立を考えたり、コップに水を注ぐなども対象にしてほしいというご意見についてですが、どこまで基準を下げられるか、これは、この場で我々だけでは判断に至りません。こうしたご意見はいただきましたので、実際に運用を進めていく中で、改めるべきということになれば、しかるべき手順を踏んでご提示をしていくことになると思います。その点をご理解いただければと思います。

【9】まず、廃止となったものを0から1にもう一度戻していただいたことはありがとうございます。

私も調理をしますし、子ども食堂側のおっしゃることもよくわかります。こちらのグループでは少し視点の違った意見も出ていて、これまでのやりとりとは違った、もう少し建設的な意見も出ていたので、せっかく皆さん集まっていますし、それを共有させていただきたいと思います。

まず、骨子はもう決まっています、「調理」という単語（の定義）も決まっているものという前提でこのグループは考えました。決まっているものに対して、9月の打ち合わせ会から譲歩していただいた部分として、簡単に言うと報告事項を甘くしていただいたという捉え方もできると、私たちは考えています。

まず先ほど説明があったとおり、目視で年代を決めてもいいという点。例えば、実際は45歳かもしれませんが、60歳くらいに見えたのかもしれないとか、この辺りかなり曖昧になっています。9月の会では、身分証を出してくださいとまでは言わないまでも、確認しなくては絶対に駄目だろうということだったのが、譲歩していただいたのかなと思います。

それから、「調理」の考え方についても、カレーをかけるだけでも、報告事項を満たせるんだという考え方もできるのではないのでしょうか。

調理体験や多世代交流を実施することで、良いこともあります。もちろん大変にはなりますが、調理体験で子どもたちとボランティアとの距離が縮まるのは良いことかもしれない。大規模な食堂も何か所かはあると思いますが、收拾がつかないから調理体験は絶対無理ということなら、例えば完全予約制にして、ある日は2人だけ調理体験ができる日とし、近所のよく来ているお子さんに調理体験をしてもらって写真を撮る、こういう考え方もできます。

あとは、電子レンジやホットプレートを使った簡単な調理に触れるようなやり方もあれば、手巻き寿司のようなものを取り入れたり、クレープを巻いてみたり。

また飲食店がやっている子ども食堂では、バックヤードには子ども達を入れられない。これはもう間違いないと思います。だからバックヤードに入れられないような方法でうまく報告をして、区もそこは認めてくれるのではないのでしょうか。確かに罪悪感が残ることは私も嫌ですし、嘘の報告をすればよいということを行っているではありません。

こうしたポジティブな意見交換の場であっても良いと思います。カレーをかけるだけでなく、最後にウインナーをのせるだけ。これを「調理」と認めていただけるのであれば、それで何とかしてやれば良いのではないかと思います。

当初、補助金自体を廃止するという話だったので、もう少し角を立てずに考える部分もあって良いのではと思い発言させていただきました。

【10】これまでご発言の皆様は、「調理」という言葉にこだわりすぎているような気がしました。このグループで出た意見の中で、子どもたちと一緒に調理の一部の作業をするという活動で、ボランティアと子どもたちとの距離が少し縮まるのではないかという意見がありました。

うちも小さい飲食店をやっていて、キッチンもすごく狭いので、とてもじゃないですけどたくさんの方は入らないんです。なので、月に1人くらいしか調理体験はできないと思うんですが、皆さんができることを少し考えてもいいかなと思いました。

### ③開会の挨拶

(えどがわっ子食堂ネットワーク 藤居世話人)

それぞれのグループで議論の方向性が違っているかなというのはありましたが、お話し合いができて良かったと思います。お手元のアンケートはぜひ書いていただきたいということと、隣の部屋にお持ち帰りいただける品がありますので、どんどんお持ち帰りいただけたらと思います。今日はお疲れ様でした。